

第1学年1組 道徳科授業案

第2限 1年1組教室

1 主題 C-(16)郷土の伝統と文化の尊重

2 教材名 「自分の地域の『宝』って」(出典:光村図書「中学道徳1年 きみがいちばんひかるとき」)

3 主題設定の理由

(1)ねらいとする価値について

中学校の内容項目 C-(16)では、「郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること」をねらいとしている。地域には、自然や祭り、名物などの形ある「宝」が存在するが、それらを長い年月にわたり守り、次の世代へとつながり継承していくことは、地域社会の一員としての自覚をもつて、郷土の文化を大切にすることである。生徒にとって地域や伝統は、しばしば遠い存在に感じられがちであるが、地域に根ざした生活や文化の背景には、必ずそれを支える人々がいることを理解できるようにしたい。地域の宝を「モノ」から「人」へと視点を広げ、身近な人々の姿に目を向けていくことで、「今ある豊橋の姿は、誰かの思いによって受け継がれてきたもの」であることに気づけるようにしたい。さらに、そうした気づきをもとに、自分も地域の一員として、未来に向けて何を受け継ぎ、どう関わっていくかを考えようとする意欲を育てたい。

(2)生徒の実態と目ざす姿

本学級の生徒は、明るく人懐っこい性格の生徒が多く、友人や教師との関係を大切にしようとする姿が見られる。学校行事や学級活動にも意欲的に取り組み、協力して一つのものをつくり上げることに喜びを感じている。また、地域行事や祭りなどに家族と一緒に参加した経験をもつ生徒も多く、郷土の文化に対して一定の親しみや誇りをもっている。一方で、地域の伝統や文化が「どのようにして今に受け継がれているのか」や、「それを支えてきた人々の思い」にまで目を向ける機会は少ない。地域の特産や祭りを知識としては挙げられるが、その背景にある人の努力やつながりを意識することはまだ十分ではない。中学1年生という発達段階は、自分を取り巻く社会や地域との関係を改めて見つめ直す時期であり、身近な人への感謝や、地域への愛着を育てる絶好の時期である。本時では、「豊橋の宝って何だろう?」という身近な問い合わせから出発し、目に見える「モノの宝」から、地域を支える「人の宝」へと視野を広げることで、地域を支えている人々に着目できるようにしたい。授業を通して、生徒が地域の文化を支えてきた人々への敬意と感謝の気持ちを深め、自分も地域の一員として文化を受け継いでいくために、何ができるのかを考えようとする意欲を育てたい。

(3)教材について

本教材「島人ぬ宝」は、沖縄の離島に暮らす人々の思いを歌った作品である。宝と聞くと、特産物や景色、祭りといった目に見えるモノが連想される。石垣島の人々も、海や空といった自然が宝であることはわかりきっている。しかし、その自然は、そこで暮らす人々と見てきた自然、ともに育ってきた自然という背景があるからこそ宝なのである。表面的な情報では伝えきれないものの、そこで暮らす人々だからこそわかり合える感覚がある。豊橋の宝である祭りや伝統にも、「人々」が必ずかかわりっている。そこで、本時では、「教科書に書いてあることだけじゃわからない」「テレビでは映せないラジオでも流せない」という言葉を手がかりに、地域の祭りや行事、伝統を陰で支える人々の姿を想起するように仕向ける。そこから、「豊橋（わたしたち）の宝＝豊橋の人々」であることを実感し、地域の中で自分がどんな役割を果たせるかを考えていきたい。今自分がなにげなく生活していることは、人々の支えがあって受け継がれてきたことだと気づき、このあたりまえを地域の一員として後世へと受け継いでいくために何ができるのかを考えようとする意欲を高めるのにふさわしい教材である。

4 本時の授業

(1) 本時のねらい

地域の「宝」とは、形ある「モノ」だけでなく、それを守り・支えてきた「人々」であることに気づき、その思いや伝統を未来へと受け継ぐために自分に何ができるかを考えようとする意欲を育てる。

(2) 展 開

分

学習の流れ

※教師の支援 ★評価

豊橋の宝って何だろう

うずら キャベツ 手筒花火 市電 ちくわ ブラックサンダー

15

教科書に書いてない、テレビにも映らない宝ってどういうものだろう

世間に出ていないってことだから、
人に知られていない秘境とかかな

目に見えるモノではないんじゃないかな。
思いとか人と人のつながりとか

沖縄の自然をきれいに保つために活動している人や伝統的な祭りを代々受け継ぐ人たちの思いも、目立たないけど宝じゃないかな

※身近な人たちの思いに目を向けられるように、豊橋だったらと切り返し、手筒花火を作っている人や、祭りを支えている人のイラストや映像を提示する。

手筒花火を打ち上げ人も、作る人も、祭りが成功するために支えてくれているから宝だね

豊橋がもっと有名になってほしいという思いの強さも宝になりそうだね

豊橋の宝の一つは、確かに祭りだけど、その宝を輝かせ、長年にわたって継承されてきた背景には、見えない努力をしてくれて人たちがいるね

40

地域の宝を後世へと受け継いでいくために、自分にできることは何だろう

もっと積極的に祭りに参加して、地域の取り組みを盛り上げたいな

もっと宝を知るために、実際に活動している人に話を聞くことはできるね

兄弟や後輩、次の世代へと思いや伝統を伝えていくためにも、もっと地域の人たちとのかかわりを増やして、地域の宝を大切にしたいという思いをもつこと

★地域の「宝」とは、「見えない努力や強い思いをもってきた人々」であることに気づき、その思いや伝統を未来へと受け継ぐために自分に何ができるかを考えることができたか（発言・道徳ノート）

※自分にできる役割を見つけることが難しい生徒に対して、体育祭で踊ったソーランも伝統行事であり、つくった人や教える人、踊る人など支え合いで成り立っているということを、教師の語りとして全体に投げかける。

